

地域と結ぶ

順天堂練馬病院ニュース

新院長あいさつ



院長 宮野 武

4月1日付で院長として赴任しました宮野で御座います。順天堂本院(文京区本郷)の院長を本年3月末日まで、4年間務めた後赴任いたしました。前任の佐藤信紘先生が大変なご苦勞の末に立ち上げられた後を引き継ぎ、順天堂練馬病院を練馬区民をはじめ周辺の方々の心と身体のおアシスのような病院になるよう全力を尽くす所存です。当院は最新最強の病院建築(免震構造)と医療機械を装備した病院ですが、それにもましてこの病院の良さは、医療安全(事故防止)と患者さまへのやさしさであります。順天堂本院は間もなく170年に及ぶ日本で最も古い西洋医学の病院として長い伝統と歴史を誇ります。その長い歴史に育まれたものは患者さまへの「やさしさ」と「安全」であり、それが故に多くの患者さまから信用・信頼を頂いてきました。当院は昨年夏、順天堂本院から特に優秀な医師、看護師、職員が多数移籍し、順天堂の伝統を受け継いでいます。当院も皆様にとって、心と身体健康面で、何か変だなと思われる病院を『そうだ順天堂に行こう』と思われる病院を目指しますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

5月 400床 フルオープン!

平成 18年 5月 1日

血液内科

血液関係でお困りの方は、何でもお気軽にご相談下さい。

ひらの たかお
平野 隆雄 教授

3月1日付けで順天堂練馬病院血液内科教授として務めさせて頂くことになりました。当科は白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄症などの腫瘍性疾患、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、鉄欠乏性貧血などの貧血症、特発性血小板減少性紫斑病など出血を起こす病気の患者さまを拝見しております。練馬病院における内科の各科との連携を密に生かした総合診療体制を目指していきたいと存じます。また高齢者の患者さまで血液腫瘍疾患の治療の必要な方に対して良い診療の在り方について努力して参ります。その一つとして入院期間を短くして出来る限り外来で治療を続け、生活の質(QOL)を高める努力をいたします。最近、血液腫瘍分野では造血幹細胞移植、免疫治療、分子標的治療など治療の進歩は目覚ましいものがあります。これらの治療に対して私共は積極的に取り組み本院を含めた関連専門施設と連携して対応して行く方針であります。血液関係でお困りの方はどうぞお気軽にご相談ください。



総合小児科

子供の病気の、24時間何でも相談センター化を目指しています。

にいじま しんいち
新島 新一 教授

この度、順天堂大学医学部附属練馬病院総合小児科の教授に就任いたしました。小児医療および小児救急医療は練馬区が掲げる重要項目の1つであります。小児科医不足の現在、私共は小児のあらゆる疾患にも対応できるよう、各領域の小児科専門医を8名揃えました。

小児科の対象疾患としては神経・筋疾患(発達の遅れ、けいれん、筋力が弱い)、呼吸器疾患(気管支炎、肺炎)、心疾患(先天性心疾患、川崎病)、アレルギー性疾患(アトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎)、膠原病(SLE、皮膚筋炎、若年性関節リウマチ)、消化器疾患(難治性下痢症、食物アレルギー、潰瘍性大腸炎、クローン病)、肝胆膵疾患(急性肝炎、慢性肝炎、膵炎)、腎疾患(腎炎、ネフローゼ症候群、水腎症、膀胱尿管逆流現象、夜尿症)、血液疾患(白血病、再生不良性貧血、血友病、血小板減少性紫斑病)、内分泌疾患(甲状腺疾患、糖尿病、成長ホルモン分泌不全性低身長、思春期早発症)、心身症(神経性食欲不振症、登校拒否症)など多岐にわたります。小児領域の幅広い分野をカバーし、慢性疾患から急性脳症、代謝性疾患の急性増悪まで対応しております。

お子様の病気の早期発見、早期治療を積極的に行い、質の高い医療をめざすため医局員一同ががんばりますので、今後とも一層のご支援を賜りますよう宜しくお願い致します。



授 紹 介

整形外科・スポーツ診療科

小児から成人まで、関節の治療について何でもご相談下さい。

のざわ まさひろ
野沢 雅彦 教授

このたび、順天堂練馬病院整形外科・スポーツ診療科の教授に就任いたしました。整形外科・スポーツ診療科では関節疾患を中心にあらゆる整形外科疾患に対応して治療を行っております。小児から成人までの股関節疾患や膝関節疾患の治療に特に重点を置いており、保存的療法から最先端の手術療法まで行っています。また、変形性股関節症や膝関節症などの退行性疾患で輸血が必要な人工関節手術や骨切り術を行う場合、自己血輸血を用いて対応しております。4月からはナビゲーションシステムを導入し、人工関節の手術に応用する予定です。膝の前十字靭帯損傷などを中心とするスポーツ外傷もスポーツ整形外科を専門にした医師が診療に従事し、良好な治療成績を挙げておりますし、関節リウマチなどの多発性の関節疾患の治療も膠原病内科の先生方と協力して積極的に行っています。当科の整形外科医はできるだけ早期に患者さまの運動機能の回復および改善が得られるように努力することを目標にし“仁の心”を持って日々の診療活動を行っていますので今後とも宜しくお願いいたします。



皮膚・アレルギー科

皮膚・アレルギーのトラブル、何でもご相談下さい。

ひるま まさたろう
比留間 政太郎 教授

3月1日付けで皮膚・アレルギー科教授を拝命いたしました。当科では皮膚・アレルギーに関するトラブルならどんなことでも扱っています。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、乾癬、脱毛症、水虫といった日常の疾患から、水疱症、膠原病、皮膚悪性腫瘍といった外来では治療が困難な疾患まで、何でもご相談ください。ひとりで悩まずに、まずは受診されることをお勧めします。難治性疾患は、御茶ノ水の順天堂本院とも連携して診療に当たります。凍結療法、炭酸ガスレーザー装置、全身型紫外線照射装置などを装備し、治療には、患者様に治療方法を十分に説明し、患者さまと相談しながら治療を選択するように心掛けています。実際の治療では、地域で開業をされている先生方と良く連絡を取って、迅速な対応を図れるよう心掛けています。

医局員一同、「皮膚病は、順天堂練馬病院、皮膚・アレルギー科に来れば治る」をモットーにしています。皮膚病全般に対応して、適切に診断・治療を行い、治癒を目指すように努力しています。皮膚病のことは、ひとりで悩まずに、何でもお気軽にご相談ください。



がん診断の最先端装置

PET

練馬地区で初 順天堂練馬病院でスタート

4月から下記のがん疾患に保険適応拡大

肺がん*、乳がん*、食道がん
大腸がん*、膵がん*、子宮がん
卵巣がん、脳腫瘍、頭頸部がん*
悪性リンパ腫、悪性黒色腫
原発不明がん*

上記の全疾患に術後の転移・再発診断、病期診断、治療後の効果判定にPETがご活用いただけます。

*の疾患は“疑い”でも保険適応になります。

迷われた場合や資料請求・予約は医療連携室までご連絡ください。
医療連携室 電話03-5923-3111（代表）



PET装置

※PETとは：Positron Emission Tomography、陽電子放出断層撮影の略です。

パーキンソン病の世界的名医

みずのよしくに

水野美邦名誉教授診療開始

パーキンソン病をはじめ脳神経疾患について、
何でもご相談ください。

診療は第2第4火曜日の午後

この度、順天堂大学医学部神経学教授を退任し、小川秀興理事長・学長より順天堂大学特任教授・老人性疾患病態・治療研究センター長を拝命しました。大変名誉なことと感じております。外来は本郷でも継続させていただいておりますが、練馬方面からおいでの方患者さんも多く、「先生練馬へ行かないんですか?」とおたずねをしばしばいただきました。神経疾患の患者さんは歩くのが不自由な方も多く、確かに近い所で診てさしあげられれば、喜んでいただけるのではないかと考え、宮野院長にお願いして、練馬病院でも外来をさせていただくことになりました。本来ならば毎週が望ましいのではないかと思います



が、まだ時々学会や色々な委員会が入って毎週ですと時々休診にしなければならぬものですから、とりあえず月2回ということで始めさせて頂こうと考えております。原則として第2と第4火曜日の午後を予定しております。紹介状のあるなしに関わらず、どなたでもご希望の方は拝見させていただこうと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



最新の院内感染予防

順天堂練馬病院は、日本で初めて本格的な病院内感染対策が施された病院として、注目されています。

①**飛沫感染対策**：咳やくしゃみによって伝染する感染症に対しては、患者さまのベッドの間隔が2メートル以上離れているのが理想とされています。これぐらいベッドが離れていれば、咳やくしゃみでお互いの飛沫が交差することはありません。



ベッドの写真

②**空気感染対策**：室内の空気圧を変化させる隔離用個室が用意されています。個室の空気圧を低くし室内の菌が廊下に漏れ出ないようにコントロールしたり、逆に個室を超高性能フィルターで清浄化した空気ですべての空気圧を高くし、廊下からの空気の流入を防ぎます。こうした施設が標準で各病棟に2床ずつそなわっています。

③**接触感染対策**：従来の病院設計では、一つの病棟に1個～2個の手洗い場でしたが、当院では約10床に1個と、従来にはない豊富な手洗い場が設置されています。

④**手洗い場のデザイン**：水辺を好む病原菌が住む余地がないよう、特別なデザインで、水が周りに跳ねにくく、シンクの縁が切り立っていて掃除がしやすい。手洗いシンクの下は、脚がない壁掛けタイプで、足元の掃除もしやすくなるよう配慮されています。

⑤**手術室対策**：無菌の風が壁の横方向から中央に向かって吹くデザインが一般的ですが、練馬病院では手術台の真上から真下にかけて吹くという理想的なデザインになっています。これは医療従事者からの微生物が体内に落下する危険性をコントロールできます。

その他にもたくさんの工夫がしてありますが、病院の中で発生する感染症や外から持ち込まれる感染症に対して“柔軟に対応できる施設”が整っている理想的な最先端医療施設、それが練馬病院の特徴です。

免震構造と災害対策拠点

順天堂練馬病院は、地域災害拠点病院として最高強度の防災、免震構造を採用しています。関東大震災級の大型地震にも対応できる免震構造（RC造）を採用し、建築されています。

さらに地域災害拠点病院としての機能を充実させるため、インフラ（電気、ガス、水道といった日常生活に欠かせない基盤となる設備）の信頼性を高めています。万が一インフラが途絶えた時に備えて水、自家発電燃料72時間分を備えるなど災害時の備蓄も完備しています。

いざ都市型災害が発生すれば一度に大勢の人々が拠点病院を目指して来ます。そのためスペースが1・2階のホールとなります。災害時には1・2階ホールがトリアージ

（災害発生時に多数の負傷者が発生した場合に、傷病の緊急度や程度に応じ、適切な搬送・治療を行うこと）のスペースとして威力を発揮し、さらにトリアージスペースとしての機能を充実させるため、医療ガス、非常電源を設備するなど極めて優れた設計になっています。



2階 エントランス・待合(全景)



1階 エントランスホール(吹抜)



地下2階 免震ピット

5月フルオープン

ご存じのように順天堂練馬病院は地域医療の拠点として、救急医療、小児医療、災害医療、がん医療に重点を置いています。開院当初のベッド数は204床ですが、既に毎日がほとんど満床状態になっています。そこで今年に入り急遽253床に増床しましたが、それでも入院待ち状態が続いています。この状況を解消させるため、当初の計画では7月に400床フルオープンの予定でしたが、きたる5月にフルオープンにするよう計画を前倒しました。それまで地域医療の拠点として、みなさまの突然の病気に対してすぐに入院治療ができますように配慮したいと思います。そこで、外来治療で可能と判断された患者さまにはできるだけご自宅で安静に過ごして頂き外来で治療していただくのを原則としたいと思います。

順天堂練馬病院は、入院を絶対に必要とされる患者さまに、一日でも早くご入院していただく努力を行って参りますので皆様方のご理解、ご支援を何とぞよろしくお願い申し上げます。

順天堂練馬病院は、

- 患者さまお一人お一人のライフスタイルを大切にし、できるだけ短期間の入院診療を目指します。
- かかりつけ医師の先生と協力して、退院後の治療を行います。
- かかりつけ医師のおられない患者さまには、ご要望に応じて信頼のできる近隣の先生をご紹介します。
- 退院後のご相談や外来受診は、医療福祉相談室で承ります。
(フルオープン後には看護相談室でも承ります。)
- 退院後の急な治療は、昼間の外来や救急外来でいつでも拝見いたします。



医療連携室より

順天堂練馬病院では地域医療機関さまとの連携を大切にします。【かかりつけ医】の先生からのご相談・ご質問は「医療連携室」で承っております。

電話 03-5923-3111(代表)

発行：順天堂練馬病院
編集：事務部総務課

住所：東京都練馬区高野台3-1-10
TEL.03-5923-3111 (代)
URL:<http://www.juntendo-nerima.jp>